



温故知新



校長 大木 康弘

校長室の壁面を大幅に変更しました。

「校訓」（北海道教育委員会教育委員長 安藤鉄夫書）の額は、そのままに、職員室に掲げられていた「教職員四訓」（初代校長 水野明章書）を移動、新たに作った「白老東高校で育てる5つの力―自己肯定力・発信力・自己教育力・課題発見力・共生力」（本校教諭 白浜みち佳書）とともに掛け替えを行いました。

開校時の資料の中に、校訓「自強 聡明 礼節」について次のような説明があります。「自強とは、学習や心身の鍛錬に自ら励み、将来にわたってたくましく生き抜く力をつけること。聡明とは、他の人の話をよく聞き、物事をよく見て理解し、未来を見通した正しい判断のできるすぐれた力を持つこと。礼節とは、互いに、他を敬い相手から信頼され、長上に対しては礼を失わず、生徒相互は人間として尊重し高めあうこと」また、教職員四訓「師弟同行 感化 研鑽 和」について、「師弟同行とは、生徒と共に考え、一緒に汗を流して師弟同行、白老東の校風づくり。感化とは、率先垂範

その姿が、生徒にヤル気を起こさせる。研鑽とは、自己変革を求め、絶えざる研鑽、学ぶ者のみが、教える資格あり。和とは、敬愛に満ちる者のみが、教える資格あり。」と説明されています。

資料を読み、この中に見られる不易な内容に、先人の、時代を見る先見性や言葉を選ぶ土台となる教養の深さに感心しました。同時に、日常的に使わないことばや意味が広範囲にわたることばに対して、今の生徒は、関心を向けないことも現実だなと感じました。

4月に本校に着任し、生徒の心の道標として、校訓を高校生活や学習活動につなげることができないだろうかと考え、職員会議及びコンソーシアム会議において次のように説明させていただきました。「自強とは、逆境に対応する力。評価の観点①粘り強さ②環境への柔軟な適応力③未来志向と挑戦しようとする心④感情のコントロール力」「聡明とは、最適な選択をする力。評価の観点①基礎知識と経験②対話する力③探求しようとする心と探究する力④振り返りと先を見とおす力」「礼節とは、心を形にする力。評価の観点①関心を形にする力②思いやりを形にする力③敬意を形にする力④感謝を形にする力」

さて、これで伝わるだろうか。道標となるのだろうか。掛け替えてみたものの、壁を見ながら、一人校長室で、問答を繰り返している毎日です。

着任者紹介

- ①お名前 ②教科名 ③前任校 ④教員経験
⑤分掌・部活動名 ⑥趣味 ⑦何か一言

① 大木 康弘 校長



- ②地理歴史・公民
③北海道日高高等学校
④33年目
⑤温泉巡り
⑦生徒が学びがい、教員が教えがい、地域が信頼し合い、3がい建での学校づくりをしていきたいと思っています。

① 岩瀬 大河



- ②保健体育
③北海道静内農業高等学校
④7年目になります。
⑤生徒指導部・生徒会 サッカー部
⑥最近、キャンプ始めました！白老では釣りをしてみたいので、いいポイントがあれば教えてください。
⑦私自身も日々成長を目指して頑張ります！一緒に新しいことに挑戦していきます！

① 工藤 尋



- ②国語
③苫小牧西高校
④42年目(?)
⑤進路指導部
⑥読書・絵画
⑦生徒たちが自分で考えるような授業ができればと思っています。

① 道下 貴弥



- ②数学科
③釧路東高等学校
④9年目
⑤教務部・硬式テニス部
⑥バンド、音楽鑑賞・制作、雑学集め、ドライブ、DIY
⑦生徒の「生きる力」を伸ばし、私自身も教員として成長したいと思っています。よろしくお願いたします。

① 夏堀 藍



- ③北海道教育庁上川教育局
④事務職員3年目
⑤事務職員
⑥スポーツ観戦
⑦学校での勤務は本校が初めてになりますが、精一杯頑張りますので、よろしくお願いたします。

PTA会長挨拶



PTA会長
堀部 貴志

今年度PTA会長を務

めさせていただきました。お

ます堀部貴志と申します。

本年度に入り早くも半

分が経過しました。校長

先生をはじめ教職員の先

生方には日頃生徒たちが

安全・安心に学校生活が

送れるよう考慮、対応し

ていただいている事に感

謝しております。

コロナも昨年度五類に

移行し高校生ならではの

生活、さまざまな学校行

事を楽しめる事ができるよ

う、皆さんの楽しそうな
姿を見てやっと本来の学
校生活に戻ったのだなど
実感することができまし
た。

今年度後半が始まりま
す。生徒の皆さんが楽し
く実りある学校生活にな
りますよう期待しており
ます。

最後に保護者の皆様に
は日頃PTA活動にご協
力、ご理解いただきとて
もありがたく感じており
ます。学校祭ではお忙し
いなか、たくさんの保護
者の方々にお手伝いいた
だき本当にありがとうご
ざいました。貴重なご意
見をいただいた事、感謝
しております。

PTA役員一同保護者
の皆様のお力をお借りし
て先生方と連携をとりな
がら生徒たちが心に残る
学校生活を送れるようサ
ポートしていきたいと思
っております。どうぞよ
ろしく願います。

入学式



第38回入学式

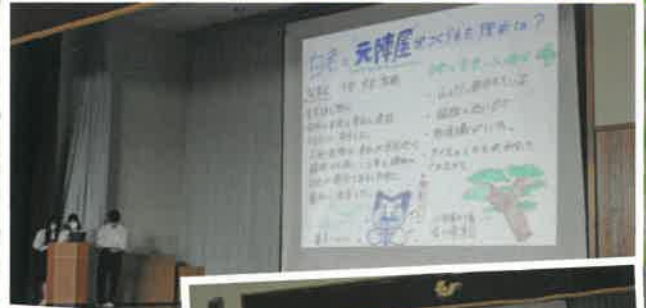


第38回入学式



1学年 陣屋探究

仙台藩白老元陣屋資料館



陣屋探究の感想

1年A組 稲田 葵

私は、陣屋探究をする前は陣屋のことを何一つ知らなかったし、歴史や北海道の昔のことなど興味がありませんでした。しかし総合的な探究の時間で仙台藩やアイヌ民族のことを調べていくうちに少しずつ興味を持つことができました。そして実際に陣屋に行き、もっと細かい所を自分たちで調べる頃には、歴史や陣屋のことやアイヌ民族のことなどとても気になるようになっていました。そして、そこで学んだことをもとにして作ったポスターは自分のメモだけではなく、班のメンバーのメモも活用しました。発表会ではお世話になった陣屋の方々に自分たちが調べたテーマ「陣屋の構造と建設」についてを上手く伝えることができたので本当によかったです。この陣屋探究ではもちろんアイヌ民族、仙台藩、陣屋の学習はできるけど、自分で考えることの大切さも学ぶことができました。陣屋探究ではたくさんのことを学べたと思います。ここで学んだことはこれからの総合的な探究の時間の活動で絶対に活かせると思います。

陣屋探究を終えて

1年B組 赤川 雫葉

私は、陣屋探究を行う前はあまり関心がなかったのですが、いざ終わってみると白老のことを深く知ることができて白老のことを好きになりました。事前学習のときには、DVDを見てメモをとる練習をしたことで陣屋探究のみではなく、社会へ出たときにも役立つのではないかと学習になりました。実際に陣屋に行ってみて、たくさんさんの陣屋の歴史や仙台藩士たちとアイヌの人たちとの関わりを知ることができました。また、自分の班のテーマであった「陣屋の絵図」について詳しく調べたときには、そのテーマの担当の方の話を聞き、私が調べた陣屋の絵図がなぜ色鮮やかなのかを知ることができました。そしてテーマを調べた後のポスター作りでは、仲間と協力してどうしたら見やすいポスターになるかを考えたり、色をつけるなどの工夫をしたりしてポスターを仕上げました。

発表会のリハーサルは体調不良で欠席してしまっただけで、ぶっつけ本番で上手にできるか心配でした。私は人前で話すことがとても苦手で、台本を見ていてもたくさん噛んでしまいました。無事に終わることができてよかったです。

白老東高等学校祭



優勝
準優勝
3
1
A B

パレード部門

優勝
準優勝
3
1
A B

山車部門

優勝
準優勝
3
1
A B

クラスパフォーマンス部門

優勝
準優勝
3
1
A B

総合

学校祭結果発表

高校最後の学校祭

3年B組 坂本 優星

私は、今年の学校祭でたくさんのことを学びました。

一つは、気持ちを全員で一つにしないと、完全なクラス企画は完成しないということです。まず、本番の前日まで作業をしなければいけないくらい、準備にかかるスタートが遅く、私を含め、最初は気合もそこまで入っていなかったと思います。本番三日前くらいになって、徐々に居残りをする人や、周囲に声をかける人が増えていきました。しかし、その声にさえも、最初の方は反応が鈍く、気持ちだけがだけていましたが、数人が反応したことで、少しずつ雰囲気が変わっていきました。最終的には全員が連携し、協力することができ、その結果が学校祭の本番での成功につながったのだと思います。スタートが遅かったことや声掛けに反応しなかったことは確かに良くないことでしたが、本番を終えた今では、それも含めていい成長につながったのではないかな

と思います。

二つ目は、一生懸命やることの大切さです。私はパフォーマンズ係の責任者を任されていたことが、最初はやる気があまり出ず、クラスメイトへの情報の伝達がおろそかになったりもしていました。さらにそのせいで、他の係の人やクラスの人たちに迷惑をかけてしまい、作業の流れを止めてしまったこともありました。その時に初めて責任者としての役割の大切さに気付き、しっかりとしなければいけないと目が覚めました。そのの辺りから、私にも少しずつやる気と責任感が出てきて、周囲でも協力してくれる人が増え、最終的にはクラス全員で団結することが出来ました。その結果、山車、パレード、パフォーマンス全てで優勝することができ、総合優勝も行うことができました。一生懸命取り組むことで、周囲の人もついてきてくれること、クラス全員が一体となることで成功を勝ち取ることができ、ことを学びました。今回の学校祭では本当に多くのことを学ぶことができ、人生の大切な思い出になりました。

元に戻った学校祭

生徒会長 成田 初音

今年の学校祭では、約五年ぶりにステージ発表と飲食店を行いました。昨年と同様に一般公開をしたの開催となり、多くの方々がご来場してくれたおかげでとても賑やかな二日間を送ることができました。

一日目は、放送局による学校祭準備期間の生徒の様子が分かるオープニング映像で始まりました。どのクラスも一丸となり作業に取り組む姿が見え、印象に残る映像に感じました。盛り上がりつつあったところでステージ発表を行いました。昨年までは違い、生パフォーマンスになったことで賑やかな声と生徒たちの熱気で体育館全体が包まれました。映像を使ったパフォーマンスや劇、ダンスなど、どのクラスにも様々な工夫が見られ盛り上がりを感じられました。そして生徒会企画では、生徒参加型の企画を行い全力で楽しむ姿が見られました。午後からはグラウンドに移り山車パフォーマンスを行いました。クラステーマに沿った山車を作りパレードを行いました。山車の説明や観客へのアピールが見られ盛り上がりしました。二日目は、各クラスの模擬店・

飲食、茶道部、吹奏楽局を行い学校全体が盛り上がりしました。飲食を今年から再開したこともあり、準備段階でどんな感じになるのかの不安や学校祭らしくなるという楽しさを感じながら迎えた本番。

どのクラスも協力して作っている姿やおいしそうに食べてる生徒や一般の方々を見て、やって良かったなと感じました。模擬店は例年通り行い、製作から楽しんでる姿が見られました。茶道部のお手前や吹奏楽局の演奏を多くの方々の前で披露しました。練習の成果を発表したり、引退前最後の演奏をして盛り上がりしました。

私がいる三年間で、一番制限がなく学校全体が学校祭ムードに包まれて盛り上がるのができたのではないかなと思います。

入学当初は、様々な制限がありマスクで表情が見えなかったり、声を出すことができない学校祭でした。ですが、昨年から制限が緩和されたことによつてみんなの楽しそうな表情や声を感じることができるようになりました。来年からもう一つやりたいことが実現できるような気がします。私たちにはもういません。新生徒会が中心となつて在校生、新入生で最高の学校祭を作り上げてくれることを願っています。新しいことに挑戦することは難しく大変なことでも多くあると思いますが、負けずに頑張ってくれると信じています。

高体連・高野連・高文連 結果報告

○サッカー部

- ・令和6年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技北海道予選会
室蘭支部予選会
合同チーム（白老東、鶴川、静内農業）vs苫小牧高専 0-11
- ・地域リーグ民報杯
合同チーム（白老東、苫小牧南、鶴川）vs苫小牧工業 1-5
vs苫小牧中央 1-5
vs苫小牧高専 0-4
vs静内 0-10
vs苫小牧東 0-4
- ・令和6年度第103回全国高校サッカー選手権大会苫小牧地区予選大会
合同チーム（白老東、苫小牧南、鶴川）vs苫小牧工業 0-8

○男子バスケットボール部

- ・2024年度苫小牧地区高等学校バスケットボール春季大会
（4/21、22日）
1回戦敗退 白老東 31-120 浦河
- ・令和6年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会
室蘭支部予選会（5/23、24、25日）
1回戦敗退 白老東 45-91 浦河

○美術部

- ・北海道高等学校文化連盟苫小牧支部美術展
令和6年8月29日（木）～30日（金） 2点出品

○テニス部

- ・4月27日 令和6年度第34回室蘭支部高等学校春季テニス大会
女子シングルス 野本 0-6 苫小牧南 1回戦敗退
- ・5月22日 令和6年度第49回高体連室蘭支部テニス選手権大会
女子シングルス 野本 1-6 室蘭栄 1回戦敗退
- ・8月8日 令和6年度室蘭支部高校テニスフェスティバル
女子シングルス 野本 2-4 苫小牧南 1回戦敗退
- ・9月1日 令和6年度第48回室蘭支部高等学校秋季テニス大会
女子シングルス 野本 - 苫小牧高専 1回戦不戦勝
野本 - 苫小牧南 2回戦不戦敗（出場辞退）

○バドミントン部

- ・高体連室蘭支部大会（5/29、30）
個人戦 男子シングルス 3回戦進出 松山
初戦敗退 和野、八木
男子ダブルス 初戦敗退 松山・八木組
個人戦 女子シングルス 初戦敗退 大島

○放送局

- ・北海道高等学校文化連盟第48回全道高等学校放送発表大会
兼第71回NHK杯全国放送コンテスト苫小牧地区大会
令和6年5月17日（金） 朗読部門 5名出場

Photo



部活を通して

吹奏楽局 五十嵐 妃葵

私は三年間、吹奏楽を通して多くのことを学び、自分の強みを見つけた。成長に繋げることが出来た。ですが、入学してすぐの私は吹奏楽局に入部する気は、一切ありませんでした。なぜなら、部員が0人だったからです。先輩がいることはなく、放課後、楽器の音が響くことはなく、一人で入部しても三年間続けられる自信もなく、諦めかけていました。そんな時に何人かの同級生が入部するかと、悩んでいるのを知り、声を掛けてみると、一緒に入部することになりました。少人数でも演奏出来るように、楽譜の書き替えや基礎練習などを仲間と協力し進めてきました。高文連や校内演奏、学校祭など二年の夏には、他校の合同合宿に参加させて頂き、演奏の技術も人としても成長することが、出来たと思います。

この三年間で、私は継続力や仕事に責任を持つことなど、様々な力を身につけることが出来たので、卒業後も自分自身を磨き、繋げていきたいと思っています。

編集後記

白高だより第114号はいかがでしたか？私も編集過程で様々な写真を見たり、行事を振り返って、ようやくコロナ禍以前の学校に戻ってきたと実感します。しかし生徒の活動を見ますと、「コロナ禍以前・以後」というよりも「今」の時代に合った方法を自分たちで模索しながら、新たな白老東高校を作っているように見えます。生徒の成長を感じ頼もしさも覚える今日この頃です。